



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1  
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690  
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169  
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117  
http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp

平成27年 4月14日 発行

## 平成27年度(第22回)入学式

## 胸を張り夢は大きく316人



平成27年度の入学式が4月5日、本校体育館で行われ新入生316人(情報文化学部187人、国際学部127人、編入学生2人)が、桜が開花したみずき野キャンパスでの学生生活をスタートさせました。

希望に胸膨らまし緊張気味の新入生に、平山征夫学長は式辞で「目標に向かって自ら主体的に楽しく学んでください。幅広く深く考える感性を豊かにし、包容力のある人間性豊かな人格を形成し、多くの友と夢を語り合い、自分の適正と能力を見定め将来の生きる道を見出してください。主役は皆さんです」と激励しました。

在学生を代表して情報文化学部情報システム学科の山田和柁さんが「多くの人と繋がって視野を広げて成長し、自由に行動できる時間を上手に使い、素晴らしい学びの環境を有効活用し

て、一緒に中身の濃い学生生活の醍醐味を大いに楽しみましょう」と歓迎のことば。これに対し新入生代表の国際学部国際文化学科の藤田健人さんが「社会、文化、経済などあらゆる分野で急速にグローバル化が進み世界中の人々と関わる事ができるように国際社会に関する知識と語学を身に付け、勉強もサークルにも積極的に参加して自分の感性や考え方を広く豊かにしたい」と力強く抱負を述べて応えました。

海外から届いた派遣留学・夏期セミナー提携5大学の祝福ビデオメッセージも紹介され、気持ち新たに新入生たちは、学生会館で待ち受ける各サークルのにぎやかな長い勧誘の列を、通り返して校舎に入り、気を引き締め、早速ガイダンスなどに臨み新しい一歩を踏み出しました。

学ぶことの楽しさ知り  
広く深く感性を豊かに

自分の感性  
や考え方を  
広く豊かに  
したい」と  
力強く抱負  
を述べて応

## CONTENTS

## 両学部長のメッセージ

## 6・7面

ズームアップ研究室  
サークル紹介Q&A(吹奏楽部)  
韓国からインターンシップ  
国際交流フェア案内  
オープンキャンパス案内

## 8・9面

派遣留学・海外夏期セミナー帰国報告

## 10・11面

“就活解禁”直前に企業交流会  
本番さながらに模擬面接  
平成26年度主な就職先一覧  
科学の祭典に体験ブース出展

## 教員の活動

## 12~16面

平成26年度卒業式特集  
卒業にあたって・濃密な時間だった  
学長式辞・理事長祝辞・卒業生答辞  
JABEE認定10人に修了証書  
特別表彰 式典スナップ



NUIS公式フェイスブック

https://www.facebook.com/nuis.face



NUISスクールアプリ

iPhone・iPad・Androidスマートフォン・タブレット向け  
App StoreまたはGoogle Playストアから新潟国際情報大学で検索  
アプリをダウンロードしてご利用ください。

LINE@

@nuis-line3111

LINEの「友だち追加」から「ID検索」で登録



## 入学式

## 式辞

新潟国際情報大学  
学長 平山 征夫自ら学ぶことの楽しさを知り  
自分が主人公の人生スタート

新入生の皆さん、「入学おめでとう」。  
本学役員、教職員等を代表いたしましたして、  
皆さんに入学のお祝いを申しあげますと  
ともに、本学への入学を心から歓迎いたしま  
す。

本学は平成6年の開学以来、皆さんで22  
回目の新入生を迎えました。毎年このよう  
に春とともにこのみずき野のキャンパスに  
新入生を迎え、入学式を挙行できますこと  
を役員、教職員一同、何よりの喜びとして  
います。

皆さんはこれからこのみずき野キャン  
パスで大学生活を送るわけですが、今、皆さ  
んの胸中には溢れんばかりの期待とともに  
一抹の不安があることと思います。でも心  
配はいりません。私も教職員は皆さんが  
スムーズに大学生活に駆け込めるようサポ  
ートしますので、分からないことは遠慮な  
く質問し、一日も早く大学生活のリズムを

築いてください。

本学は幸い多くの先輩教職員、卒業生た  
ちの努力もあって、この20年余りの比較的  
短い歴史にもかかわらず、地域から頼られ  
る存在として評価されるようになりまし  
た。皆さんにはこうした伝統を引き継いで  
いただくとともに、いつそう地域になくて  
はならない存在になるよう新たな歴史を一  
緒に刻みましょう。

本学は20周年を期に種々の大学改革を実  
施、国際学部を新設し2学部制として昨年  
スタートし、さらなる発展のための体制を  
整えたところです。併せてより充実したキ  
ャンパス生活を過ごせるよう皆さんの活動  
の拠点としての「学生会館」を20周年記念  
事業として建設、昨年から学生活動の拠  
点として機能しています。どうぞ大いに活  
用し、クラブ活動など大学生活の充実に役  
立ててください。

本年は、情報文化学部187名、国際学  
部127名、編入学生2名、合計で316  
名の新入生を迎えました。私をはじめ教職  
員一同、建学の理念であります「わが国の  
社会、文化についての認識と理解を基礎に、  
国際化、情報化の社会の中で役に立ち、能  
力があり、意欲があり、人間性豊かな人物  
を育成する」という目的に向かって、皆さ  
んが日夜勉学に勤しみ、人格・人間形成に  
努めることができるよう最大限サポートし  
ます。でも主役は皆さんです。私たちに全  
力でぶつかってきてください。

入学式に当たり学長として皆さんにお願  
いをしたいことがあります。皆さんは先ほ  
ど述べました本学の建学の精神等に共鳴し  
国際文化、語学、情報システム、経営情報

といった専門分野に関心を抱いて、この分  
野での将来の活躍を夢見て、高等教育を本  
学で学ぶことを選択したわけですから。私た  
ちは皆さんのそうした希望に応える責任があ  
りますが、皆さんにもご自分の目的に向か  
って精いっぱい努力する責任があります。

そこで最初のお願いは当たり前のことで  
すが「目的に向かって、しっかりと勉強して  
ください」ということです。そのため、早期  
に勉強する習慣を身に付けてください。大  
学では自ら主体的に学ぶことが求められま  
す。高校までのように決められた授業スケ  
ジュールに従って学ぶものではありません。

何を学ぶかを決め、カリキュラムを選ぶの  
は自分です。しかも選んだ授業に出るかど  
うかも自己判断です。急に自由な生活に変  
わって、戸惑ってしまう学生もいます。私  
たちは入学後最初の半年の間に自ら学ぶと  
いう生活習慣を身に付けることが何よりも  
重要と考えています。それができないと授  
業についてゆけず、欠席しがちになってし  
まいます。最初の半年のうちに学ぶ習慣を  
きちんと身に付け、学ぶことの楽しさを知  
ってください。

一般の卒業式では、卒業生に社会人に踏  
み出すはなむけとして、「インド独立の父」  
マハトマ・ガンジーの「明日死ぬと思つて  
生きなさい、永遠に生きると思つて学びな  
さい」という言葉を贈りましたが、この言  
葉は大学生となって「自ら学ぶ」人生をス  
タートする皆さんにも深い意味を持った言  
葉であると思います。

もう一つお話ししましょう。アメリカの  
数学者が分かりやすい数学の本を書いて、  
本のタイトルに「Let's teach a fish how  
to swim (魚に泳ぎ方を教えよう)」と付け  
ました。もともと泳げる魚に泳ぎ方を教え  
ようというのは、魚が持っている泳ぐ能力  
を信じたうえで、より正しい泳ぎ方を教え

ることで、魚が自らの力により力強いより  
美しい泳ぎ方を身に付けるようにという思  
いからです。私もまったく同じ思いです。  
皆さんは学ぶ力をもともと持っているのだ  
す。学びたいという望みを持っているので  
す。その力を最大限引き出すのが私たち大  
学の役割だと考えています。でも、それには  
自分の力を信じ、泳ごうという意欲を持っ  
て立ち向かっていかなければなりません。

入学後極力早く泳ぎ方の基本を身に付け  
てください。そしてどんな荒波でも乗り越え  
られる泳ぎを修得して自立してください。  
もう一つのお願いは、専門分野を深く学  
ぶと同時に、「極力幅広い思考ができるよう  
いろいろな問題に関心を持って学んでくだ  
さい」ということです。人生を乗り切る知  
恵の引き出しをたくさん持つてください。  
そうすることで、幅広い視野で考える力が  
付き、判断が正確になり、自信ある行動に  
つながってゆきます。そしてそれは皆さん  
の人生を豊かにしてくれるでしょう。その  
時大切なことは、同時に相手の意見をも受  
け入れる包容力を持つことです。考え深く、  
包容力のある人間性豊かな人格を形成して  
いくことが、最も人生で大切な「信頼され  
る人間」になる条件です。

大学で専攻する専門分野を深く学ぶこと  
はもちろんです。同時に哲学、文学、歴史、美  
術、音楽など思考と感性を豊かにしてくれ  
る分野にも大いに興味を持って取り組んで  
ください。クラブ活動や、先生や友人との人  
間関係からも多くの事を得るでしょう。積  
極的に部活や友人づくりにも取り組んでく  
ださい。入学式の最後に本学の校歌が歌わ  
れますが、その中に私の好きな歌詞があり  
ます。それは「憧れを空に描いて 友と歩  
もう 夢つくる道を」というところです。ま  
さに本学で皆さんは豊かな人間性を育み、  
友と互いの夢を語り、その実現のため大い

に学んでください。

先日の卒業式で大変うれしかったことがありました。それは卒業生Aさんの答辞です。第一希望の大学に入れなかったAさんは、やむなく入学した本学の入学式で悔し涙を流したそうです。でもやりたかったロシア語の勉強をするうちに、先生や同僚と素晴らしい人間関係ができ、ロシア語も上達し、「卒業する今は、この大学を選んで本当に良かったと思っています」と答辞を締めくくったのです。そこに至るにはAさんの心の葛藤と並々な努力、そして同じ境遇で入学した友人との切磋琢磨があったと思います。私がこの答辞のことを皆さんにお話ししようと思ったのは、大学生活が意義深いものになるかどうかは、希望の大学に入学できたかどうかではなく、自らが大学で何をしようと努力するかにあるからです。まれにですが「この大学には私の学びたいことがない」と言って中退してゆく学生がいます。残念なことですが、私にはその学生自身に学びたいことがないのではと思わ

## 私の抱負



新入生代表  
国際学部 国際文化学科  
藤田 健人

## 国際社会に関する知識も

## 感性や考え方も広く豊かに

春寒しだいに緩み、桜の花が待ち遠しい

れて仕方ありません。皆さんが学びたいこと、学ぶべきことは必ずこの大学の中にあると思つて探してください。本当に無いと思つた時は私に言つてきてください。今この入学式の場にも、Aさんと同じ気持ちの新生入生がいるかもしれません。大学は本来自ら学びたいことを持つて自ら学ぶ場です。学ぶ目的をまずしっかりと持つて、学びながら徐々に自分の適正と能力を見定め、自身の将来の生きる道、生き方を見出して行つてください。そうすればこの大学を選んだことに悔いはなくなるはずですよ。

先ほども申し上げたように明日からの大学生活はこれまでとは全く違い、限りなく自由です。自由であるからこそ自己管理をしつかり行い、メリハリのある計画的な大学生生活を送つてください。それには4年間は何を修得するか目的を立て、それを達成する計画をつくつて、それに向かって一日一日を有意義に過ごすことです。

もう一つ、あまり入学式にはふさわしくないのですが、毎年お願いしていることが

あります。学生諸君だけではなく御父母の方々にも一緒をお願いしています。

それは、こうして期待に胸を膨らませて入学しながら、途中で休退学する学生がいることです。経済的理由によるケースも増加気味ですが、何とんでも勉強意欲の喪失、実質は授業についてゆけないという理由が一番多いのです。しかもよくいうかと思いますが、もっと早く相談してくれば何とか休退学に至らずに済んだのというケースもあります。私としては極力こうした事態に至らぬよう大学も全力で皆さんの相談に乗つて問題解決に努めたいと思いますので、どうか悩みを抱え込まず前広に相談してください。大学に行きたくないような状態になり始めましたら、すぐにゼミの先生か学務課の担当者に相談してください。昨年から大学としても体制強化のため新しく「キャンパスライフ支援委員会」を設置し、面談などいっそうの対応力強化に努めています。私が委員長を務めています。

季節となりました。

本日は、私たち新入生のために、このような素晴らしい入学式を挙げていただきまして誠にありがとうございます。また、数々のお祝いの言葉、激励の言葉をいただき、心より厚く御礼を申し上げますとともに、身の引き締まる思いでいっぱいです。

ここ10年あまりで爆発的にインターネットが普及し、一般の人でも容易に世界とつながることができるようになりました。その結果、世界中の人々と関わる機会が増え、社会、文化、経済などあらゆる分野で急速にグローバル化が進んでいます。

実際に、社内の公用語を英語とする会社や、小学校での英語の必修化など、その影響は私たちが見て取れるほどに大きくなつ

ご父母の方々にも家庭でお子さんと大学生活についてお話くださるようお願いいたします。先ほど申しましたように入学後半年くらいがポイントですのでよく見守ってください。ゼミなど欠席が続いた場合には大学側から連絡させていただきます。不幸にして途中で家庭事情の変化で勉学の継続が難しくなった場合にも相談ください。勉強意欲を持った学生が経済的事情で学び続けられなくなることは何とか避けたいと、父母会の御尽力で一定の条件を満たすケースについては支援する制度が20周年を期に発足したところです。どんな事態になつても勉強意欲は持つていてください。一緒に悩み相談に乗ってくれる人がいることを忘れないでください。

明日からこのみずき野の豊かな自然の中で、充実した大学生活を大いにエンジョイし、青春を謳歌してください。卒業式では、私の友人さだまさしさんの「風に立つライオン」の話もしました。実は、さださんのフアンの人気投票では、この歌は第2位でした。第1位は意外と「主人公」というあまりみんなに歌われていないものでした。でもこの歌は「自分の人生は自分が主人公なのだから、選んだ以上精いっぱい生きよう」という静かなエールを送り、多くの人に激励を与えてきたようです。明日から皆さんも「自分が主人公」の人生をスタートしてください。

本学では挨拶運動をしています。この式の後からは早速、大学内ではお互い元気よく「おはようございます」「こんにちは」と挨拶しましょう。挨拶から信頼しあう人間関係が生まれると信じてこの運動を続けています。今日から皆さんは同じ仲間として挨拶を交わしましょう。さっそうとした皆さんの大学生活を楽しみにし、学長としての歓迎の挨拶とします。





在学生代表

情報文化学部 情報システム学科

山田 和枢

## 「人」「時間」「環境」を意識

### 中身濃いキャンパスライフを

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。新入生の皆さんの入学を、在学生一同心から歓迎いたします。また、御臨席いただきました多数の保護者の皆さまには、心からお祝い申し上げます。

さて、晴れて新潟国際情報大学の学生となった皆さんですが、皆さんは大学生活のビジョンをお持ちでしょうか。まだ、期待と不安が入り混じっている方もいれば、既に留学や資格取得などを考えている方もいらっしゃると思います。高校生活以上の大きな可能性のようなものを感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私もこの大学に2年前に入学しましたが、入学式に新入生として出席したことをついでこの間のこのように思い出せます。そのくらい、大学生活はあっという間に過ぎていきます。ですから、ぜひ皆さんには、卒業後を見据えながら中身の濃い4年間を過ごしてほしいと思います。

今回は中身の濃い大学生活を送るために、皆さんに大学生活で意識してほしい三つのポイントについてお話ししたいと思います。大学生活では、多くの方がこれまでより行動の幅が格段に広がると思いま

す。どこに意識を向ければよいか迷うときもあるでしょう。そんな時に、皆さんの行動を選択する助けになればと思います。その三つのポイントとは、「人」と「時間」、そして「環境」です。

まず、一つ目の「人」についてお話しします。これは人との繋がりを意識してほしいということ。人との繋がりの広さは自分の視野の広さに繋がります。交友関係を広げていくことは、新たな知識や経験を手に入れ、自分を成長させるチャンスでもあります。特に新入生の皆さんは、まだこの大学について詳しく知らないと思いますので、在学生とのつながりを持つことは非常に有益かと思えます。また、交友関係を広げるためにクラブ活動に参加してみたいかがでしょうか。後日クラブ紹介が行われますので、自分の興味のあるクラブをぜひ見つけてほしいと思います。

次に二つ目の「時間」についてお話しします。皆さんは、これから大学生活を送っていく中で、自分の自由に行動できる時間が多いことに気付くと思います。初めのうちはなんとなく過ごすことが多いと思いますが、その時間をうまく使うことが大学生生活を充実させるコツです。もちろん、課題等に追われたりもするでしょうが、図書館に行ってみたり、クラブ活動などでスポーツやクリエイティブな活動をしてみたりすることで自分の世界が広がっていくはず。ぜひ自分なりの時間の使い方を見つけてください。

そして、最後に「環境」についてです。新潟国際情報大学には去年新設された学生会館をはじめ、勉学、運動、交遊に役立つ施設がたくさんあります。資格取得や留学、就職等のサポート面も幅広く対応してくれます。これだけの環境を利用できる機会というのはいらないと思えますので、ぜひこれを有効活用して大学生活を送ってほしい

## 祝電

順不同

日本私立大学協会会長

大沼 淳様

新潟県知事

泉田 裕彦様

新潟市長

篠田 昭様

新潟商工会議所会頭

福田 勝之様

株式会社日本ドリコム

山城 由紀雄様

代表取締役

株式会社リクルート

吉澤 克彦様

代表取締役社長

北関東マーケティング

野沢 慎吾様

代表取締役会長

セコム上信越株式会社

石崎 とおる様

衆議院議員

と思います。また、多くの教職員の方や、共に学ぶ学生の存在も忘れないでください。これらは、多くの施設と同じぐらい重要な環境です。一つ目のポイントである「人」でもお話ししましたが、人との繋がりの広さは自分の視野の広さです。学生同士のみならず、機会があれば教職員の方とも交流を深めてみてください。

さて、私からは三つのポイントをお話しさせていただきました。皆さんの大学生活の参考になれば幸いです。そしてこれから、皆さん一人ひとりの能力と行動で道を切り開いていかなければなりません。大学生活には多くの選択肢が存在しますが、その選択は皆さんに委ねられています。それが大学生活における自由であり、大学生活の醍醐味でもあります。私たちと一緒に、有意義な大学生活を過ごせるように頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、皆さんの入学を心から歓迎し、ともに充実したキャンパスライフを過ごせることを願い、歓迎の言葉とさせていただきます。

## 湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員 西山 茂

今年の2・3月の天候変化には驚かされた。寒暖がめまぐるしく変わったり、みずぎ野の辺りで3月に2回も結構な量の雪が降ったり。それでも、春はコーナ1を回ったようである★地域や年にもよるが、春を3月から5月の間だとすると、学び舎にとって春は大事な区切りの時期である。言わずもがなの卒業と入学である。大学の場合、4年間で身に付けたさまざまな知識とスキルを持った若者を次のステップに送り出し、その一方で期待と希望に胸を膨らませてくる若人を次のステップとして受け入れる。われわれ教育機関の教職員の責任の重さをあらため感じるときである★日本の場合、別れと出会いの季節はこの時期に設定されているが、これは日本ならではの季節感のもたらした、非常にうまい設定であると思う。この季節、冬ごもりから抜け出すと、ものみな萌えてそれまでとはまるで違う景色が出現する。こんなうまい設定はなかなか無いのではないだろうか。欧米のように夏休みが明けたら次のステップというのは面白みがなさ過ぎる★学び舎から去っていく諸君、皆意外と自覚がないようであるが、諸君らはこの4年間で多くのことを学び多くのスキルを身に付けてきた。どうか自信を持って次のステップに進んでほしい。また、これから学ぶということを忘れずに、新しいことに進んで挑戦していつてほしい★学び舎に入学してくる諸君、大学は楽しいばかりのところではないが、諸君らの人生に大きな影響を与える場である。さまざまなことに興味を持ち、自分の可能性を信じて進んでいつてほしい。そして、楽しんでほしい★私も1年間の湧源の担当を終えて次のステップに進むことにする。



# さあ「新しい自分」を発見しよう!

## 国際学部



佐々木 寛学部長

皆さんはどんな経緯でこの大学に来ることになったのでしょうか。念願の第一志望だった方も多いかもしれません。しかし「たまたま近くにあったから」「親に勧められたから」「第一志望の受験に失敗したから」などという方もいるかもしれません。あるいは、中学や高校の延長として「ただ何となく」「皆も行くから」大学の進学を決めたという方もいるかもしれません。

## 情報文化学部



白井 健二学部長

情報文化学部は、開学以来「情報システム学」をカリキュラムの基本としています。社会の変化に伴い、昨年度は、さらなるカリキュラム改訂を実施しました。1年から4年の各年次での

けれども、これから皆さんがこの大学で経験する新たな出会いによって、そんな当初の動機はまるで嘘のようにつまらないものであったことが分かんと思います。

あえて言いますが、皆さんは運がいい。どんな理由で本学に

機会を得ることになります。国際学部が誇るのは、何よりもまずその個性的な教授陣です。国際関係学を学ぶ上で、これ以上の教授陣と共に学ぶことのできる大学は全国でも多くはありません。皆さんは1年から4年生までずっと、自分が選ん

そのため、研究の最前線で活躍する先生方とじっくり時間をかけたやりとりを行います。それがゼミナールです。ゼミナールを通じて、「勉強」が必ずしも得意でなかった学生でも、「学問」に開眼するケースも多く見られます。

ただ、これら多くのチャンスは、まるで回転寿司のように、目の前を通過していきます。まず手を伸ばして、それを実際に食べてみなければ、その味のおいしさも分かりませんし、栄養も身につけません。「食わず嫌いは、大学ではもつとも大きな罪です。」

## 本当の学びに惜しみない支援

入学したにせよ、これから始まる国際学部での学びと経験は、他のどんな大学や専門学校でもなかなか経験することのできない貴重なものになると思います。今後皆さんは、卒業後も世界のどこに行っても胸を張ることができる高度な教育を受ける

だ複数の先生とみっちり対話をしながら学びます。それは皆さんの高校までの「勉強」とはまったく異なります。大学での「学問」は、これまで偏差値やペーパーテストによって輪切りにされてきた皆さんの知的な可能性を再び修復し、開花させます。

また、派遣留学や個人留学、「国際交流インストラクター」制度など、学外での実践的な学びの機会も多くあります。大学での学びは、単に机に座っているだけで得られるものではありません。実際に身体を動かし、現場や社会の現実

自分の可能性をあらかじめ限定せず、食わず嫌いをせず、新しい事には何でも挑戦して、ぜひ「新しい自分」を発見してください。それを求める学生には、本学部の教授陣は惜しみない支援を送ります。皆さんの健闘を心からお祈りします。

担当教員を配置し、学生と教員との距離が短くなり一人で悩むことがないような体制ができました。1年後期には、グループワークを主体としたPBL (Project Based Learning)を導入し、5人に1台Tabletを貸与し

から帰国後は、自分の目標が定まり、進むべき方向に向かって勉強に励んでいます。昨年から実施した東南アジア(マレーシア科学大学)への海外インターシップもさらに拡大してマレーシア科学大学およびインドネ

システムを示すものではなく、社会または個人の活動に必要な情報の収集・蓄積・処理(加工)・伝達・利用に関わる仕組みです。

情報コースは、プログラミングをベースにシステムを開発できる人材の育成、また、情報システムを構築するための情報技術(含むプログラミング)とネットワークに関する

は必須の技術です。

一方、経営コースは、情報システムを活用できる能力を育成し、地域社会に貢献できる人材の輩出を目指しております。公務員・金融系企業などあらゆる分野に挑戦できるように資格取得を指導しております。経営コースで学ぶ中で、卒業後の進路を明確にすることが大切です。例えば将来、情報システムを活用して経営のできる人材、あるいは、メディアの世界で活躍したいという目標です。あるいは、公務員になり地域に貢献したいという目標です。

## 情報システムを創造、活用する

たIT教育も好評でした。昨年度は、カナダ短期留学に10人参加しております。カナダ

シアのボゴール農業大学へと拡大実施予定です。情報文化学部として、積極的に海外の大学と情報システムを通して交流を進めております。

情報システムとは、単にコンピュータを中心にした技術的な

このように情報文化学部はグローバル社会を生き抜く人材を育成していきます。

## 新入生の皆さんへ

情報システムとは、単にコンピュータを中心にした技術的な

品など)、農業においてもIT

このように情報文化学部はグローバル社会を生き抜く人材を育成していきます。



私の専門は日韓比較文学ですが、ゼミでは文学作品に限らず、政治、歴史、文化など多様な課題を採り上げています。言ってみれば「日本」と「韓国」が互いにぶつかり合う場。しかしそれは必ずしも韓国人の教員と日本人の学生という構図を意味するものではありません。個人と社会、個人と国家の関係性を視野に入れると日本人とか韓国人という差異・境界は必ずしも絶対的なものではないということ、身をもって体験し、認識を深めたうえで互いにあえてぶつかってみようと、教員の私もゼミ生の学生たちも臨んでいくからです。そこに緊張感と真

日本と韓国は互いに鏡のような存在。といったも存じのように日本と韓国は長年「近くて遠い国」と言われてきました。この陳腐な修飾語は、互いの大衆文化の受容と発信、民間レベルでの活発な交流を背景にもう消えてしまったかと思われましたが、残念なことに「やはり日本と韓国は」という両国民の気持ちの捻れを伴って最近再び登場しています。



## 陳腐な「近くて遠い国」の修飾語が消えるまで

剣さが生まれるといえましよう。文学作品を通して過去の支配・被支配の不幸な時代を生きた人々の姿に、真摯に向き合って理解することが申ゼミの大きなテーマの一つですが、それには当然、日本社会の「在日」または「在日問題」も含まれます。関連図書を読んで発表し議論を進める他、韓国社会や在日社会を描いた映画やドラマを鑑賞し、感想を述べ合ったりもします。また今現在進行中のさまざまな問題についても詳しく調べて積極的に議論をしています。ゼミ生の中にはもともと韓国に興味を持っていて韓国語を勉強したり韓国に留学したりした学生が多く、教員の私としてはゼミ生一人ひとりの関心分野をできる限り尊重しながら共に学んでいく雰囲気をつくっていくと努めています。

柔軟な姿勢で韓国・朝鮮への理解を深め、日韓朝関係の望ましい近未来像について一緒に考えていきたいと思っています。「近くて遠い国」という陳腐な修飾語が完全に消える日を待ち望みながら。

**日韓両国の課題を比較し  
相互理解の大切さを学ぶ**  
4年・瀧川 未来

私たちは、パワーあふれる申先生の下、共に派遣留学を経験し、和気あいあいとした9人のメンバーで、文化・政治・歴史を中心に日韓両国の比較を通して両国の抱える問題について研究しています。

3年後期は、第二次世界大戦がもたらした出来事やその現代に至るまでの影響をさまざまな角度から学びました。また、私たちは実際に韓国へ現地学習に行き、ゼミで採り上げた人物に関する場所などを訪れ、韓国側から見た日本を知るといった機会を設けました。申ゼミでは、日韓両国を比較することで相互理解の大切さを学ぶことができます。

ゼミ生の卒業研究テーマ

## サークル紹介 Q&A

(熊谷航介部  
長・情報文化  
学科4年)

現在の部員は5人と少ないですが、だからこそ全員がまとまって厳しい上下関係もなく、和気あいあいとした雰囲気です。また、交歓会や学生ウインドアンサンブルは他大学と共に大人数で演奏でき良い経験になると思います。経験者、初心者問わず大歓迎、ぜひ気軽に部活動見学に来てみてください。

### 吹奏楽部



## 県内8大学とのアンサンブルも楽しむ

- Q. 活動状況を教えてください。**  
— 去年までは、毎週火・木曜の午後6時から7時40分まで教室を借りて練習していました。今年からは新しい学生会館2階のスタジオで練習することになります。
- Q. どんな大会(演奏会)に参加していますか。**  
— 去年は4月に大学の近くの中原邸でのイベントで演奏したほか、学内では前期に音楽祭、後期には紅翔祭、卒業式での演奏、学外では夏に新潟県内8大学吹奏楽交歓会、冬に新潟県学生ウインドアンサンブルに参加しています。
- Q. 吹奏楽部を一言でアピールしてください。**  
— 少ない人数だからこそその団結力のある部活です！
- Q. 入部のきっかけは何ですか。**  
— 幼い頃に姉がピアノを弾いていたのに影響されたという人や単に音楽が好きでちょっと楽器を吹いてみたいという軽い気持ちで始めた人などさまざまです。
- Q. あなたにとって、吹奏楽部とは？**  
— 一生続けていきたい趣味と一緒にできる場です。



新潟国際情報大学でのインターンシップが決まった時、私より先にインターンに来ていた先輩たちが、新潟国際情報大学の素晴らしい経験を語ってくれながら、とてもよい経験になるだろうと言ってくれました。ここに来るまではその意味がよ



## 韓国からインターンシップ 李智映イジヨンさん

### 「韓国社会と若者文化」を特別講義

生たちが卒論を準備し中間発表会を行っていることや、韓半島未来財団の脱北学生たちと楽しく交流をする姿を見ました。また韓国語授業を聴講しながら授業がどのように行われているかを、授業運用方法を学ぶ

短い期間でしたが、言葉では言い尽くせないほどたくさんの方の話を学びました。韓国に帰っても新潟国際情報大学のことを決して忘れません。このような素晴らしい機会を与えていただいたことに心より深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

く分かりませんでした。先生の前で私が直接授業を行ったことはとてもいい経験でした。少人数クラスなので効率よく授業を行うことができました。また「韓国朝鮮文化論」の授業では、

学生たちの些細なことにまで関心を寄せてくださる先生方のお姿に深く感銘を受けました。そして学生たちがうらやましくなりました。学生たちもとても情熱を持っていていました。

## 成長を実感

### 派遣留学・海外セミナー帰国報告会

実り多い体験、大きな成長：昨年度の派遣留学（情報文化学科）と海外夏期セミナー（情報システム学科）の帰国報告会が2月5日、本校（みずき野キャンパス）の国際交流センターで開かれました。

今回の5カ国への参加学生は合わせて63人。多様な文化に触れた新たな発見や貴重な体験、言語・文化や生活習慣の全く違う海外生活での不安と克服などが5コースの代表から力強く報告されました。また、友人

やホストファミリーとの交流の楽しい思い出、上達した語学力を披露したスピーチもあり、実り多かったです。充実した留学生活の報告がありました。

懇親会では平山学長や佐々木、白井両学科長などからねぎらいの言葉もあり、互いの健闘ぶりと失敗談なども語り合い、貴重な異文化体験を今後の進路に生かしていこうなどと激励しました。



# 国際交流フェア

日時 平成27年 **5/31日** 会場 新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス  
新潟市中央区上大川前通7 (新潟駅方代口より市内バス5分「本町」下車)

13:00~16:00

入場無料

新潟国際情報大学学生による  
**留学報告会**  
14:30~15:50  
カナダ・中国・ロシア・韓国・アメリカ

高校生  
**英語スピーチコンテスト**  
13:00~14:30  
テーマ「私ができる国際交流」

# オープンキャンパス

高校生はじめ どなたでもご参加できます！

- 学部およびカリキュラム説明
- 入試問題の傾向と対策
- 模擬講義
- コンピュータ実習
- 語学体験
- 個別入試相談
- 個別就職相談
- 海外留学相談
- 学生との懇談
- 校内見学
- 保護者向けプログラム

会場 **新潟国際情報大学 本校**  
新潟市西区みずき野3-1-1 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)  
【参加お申込み】 高校の進路指導の先生、もしくは右記までお申込みください。  
※時間に変更となる場合もありますので事前にご確認ください。

お問い合わせ先 **新潟国際情報大学 入試・広報課**  
〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1  
TEL 025-264-3777 (直) FAX 025-264-3780 nyushikouho@nuis.ac.jp

7・8月 無料送迎バス 運行  
詳細はホームページをご覧ください

## OPEN CAMPUS 2015

1回目 **7/19日** AM 10:30~PM 3:30

2回目 **8/2日** AM 10:30~PM 3:30

3回目 **9/6日** AM 10:30~PM 2:00

# 挑戦し学んだ有意義な日々

## アメリカコース



情報文化学科  
大島 千歳

## 勉強の成果をスピーチ

私は8月中旬から12月中旬までの約4カ月間アメリカのノースウェストミズーリ州立大学に留学してきました。今日はアメリカでの授業や大学生活、ほか大学の外での体験について、勉強の成果と復習をかねて英語でスピーチさせていただきたいと思います。

First, I'll tell you about my class. Secondly, I'll tell you about my college life. Lastly, I'll tell you about my Thanksgiving Day.

First of all, it's sure that my class made me improve. In first two months, I was really nervous every day because it was difficult for me to understand what I should do in my class. Although I did not understand what the teachers said, I had a lot of homework. But it gave me many vocabularies and self-confidence, and now I can tell my opinions. Everything was getting better than beginning. And my classmates were interesting and funny. I wish that I could study with them again.

Secondly, I enjoyed living in the Northwest Missouri State University. There were many events such as Paint Party, Football Games, and We The Kings' Concert. We do not have these in Japan, so I was really excited. And I made friends who are not from Japan, and I sometimes hung out with them to eat and shop. I enjoyed American school life.

Lastly, my Thanksgiving Day is the best memory for me. I've stayed with some families for five days. My host, Bob and Terri, are very nice. Their house was beautiful, and I helped their Christmas decollating. I was so comfortable, and I really liked them. This was my first time to speak really only English. Nobody understands Japanese around me in whole break, so I spoke English so much. It was a little hard, but I'm so glad to meet them.

In conclusion, this study abroad became my greatest experience in my life so far. My English skill became much better than before. It was not only good things, but my challenges made me strong. I'm sure that my choice which I went to America was great for myself, and I really want to go back again. Thank you for your listening.

ありがとうございました。

## ロシアコース



情報文化学科  
今井 勇希

## 生活の違いに困惑も

Здравствуйте! 私たちは4カ月間ロシアのウラジオストク国立経済サービス大学(BYU)へ留学しました。この4カ月間は私にとって非常に有意義な日々でした。初めのころは不安も多く日本との生活の違いに多少困惑もしました。トイレに紙を流せなかったり、水道水を飲めなかったりと日本とはこんなにも違うのかと驚きました。例えばスーパーでの体験。日本の店員はみんな笑顔で「いらっしやいませ!」という風に対応してくれますが、ロシアの店員は不愛想で

大きなお金を出すと「もつと細かい金は持っていないのか!」という風に、日本では考えられないような対応もされました。しかし、ロシア人の先生方や生徒たちはみんな温かく接してくれました。授業はすべてロシア語で行われました。初めはほとんど聞き取ることができなかったのですが、毎日ロシア語を耳にしてい

るうちに徐々に慣れていき、気が付けば自然と聞き取れるようになっていました。授業以外でも他の国の留学生とロシア語でコミュニケーションをとっているうちにロシア語のスキルは向上していききました。私はこの留学で多くの友人ができました。彼らは私よりも圧倒的にロシア語のスキルがあり、彼らの言っているロシア語

が理解できずに困っていると、私が理解できるようにゆっくり話してくれたり、もつと簡単な単語で話してくれたりしました。彼らともつといっぱい話したかったので、必死で勉強しました。彼らの存在が私のロシア語を学ぶ上でもとてもプラスであり、何より彼らと一緒にいることがとても楽しかったです。彼らには本当に感謝しています。спасибо!

## 中国コース



情報文化学科  
加藤 龍太

## 体験を生かせる職業に

派遣留学を無事終えた皆さんと、このように再会できてとてもうれしいです。私たちも留学

生活を充実させようと日々勉強し、外国の友人と交流し、悔いのないよう毎日を楽しんで過ごしてきました。まず私が皆さんに伝えたいのは、中国という国はとても良い国だということです。留学する前に、私の両親の北京に対する印象は良くないもので、治安が悪い、反日感情が強いというものでした。しかし私が実際に体験した北京は、夜に一人で歩いても街は明るくて安全であり、反日感情を持つ人は全くいませんでした。「百聞は一見にしかず」という言葉はまさにこのことで、実際にその文化・人々に触れるということは非常に大事なことなのだと感じました。この体験を両親に話すと中国への印象は変わり、良い国なのだと認識するようになりました。私はより外国の異文化・国際関係について勉強したいと思

い、興味の幅もより広がりました。この体験を生かし、私は日



# 文化の違いに新鮮な驚き

今回の留学を経験して、私の日々の生活が変わりました。自分の中で最も大きく変わったと実感できることは、初対面の人を相手にしたときの対応です。

私はこの渡航前、とても恥ずかしがり屋で、道を尋ねるために知らない人に話しかけることすらできませんでした。しかし、渡航後はできるようになりました。

カナダでは、自分が聞きたいことも「英語だどのように表現すれば良いのだろうか」と考え、その時思ったことは「日本語ならば簡単に聞くことができるのに」ということでした。もちろん、英語でも自分が聞きたいことがあるなら積極的に聞くことが大事であると思い、簡単なことならなるべく聞くようにしました。それからは、知りたいことは積極的に英語を使ってクラスメートに聞くことにしました。授業で使った英語が何か尋ねるときに使えました。

こうした思いをしたので、日本に帰ってきてからは、恥ずかしがり屋の私も他人に聞けるようになって、自分は変わったなと実感できるようになりました。

カナダでは当初、不安だらけで、生きていけるか心配でしたが、実際に行ってみると不安はなくなり、行ってよかったと思いました。そして、楽しみにしていたBanffやゴルフですが、やっぱり楽しいものでした。渡航前にGoogleで調べたBanffは、写真に収めようと思っても収まらないほど大きな素晴らしい景色で、「心のアルバム」にしっかりと記録しました。

多くの思い出ができました。物事の考え方や、人を相手にしたときの対応の仕方が日本と違い、とても新鮮でした。一日一日がとても濃密で、帰ってきたときは、とても疲労感がありましたが、楽しい貴重な日々でした。

ここで最後に、ちょっとだけ英語で話したいと思います。

I'm pretty sure none of this would have happened if I hadn't been gone to Canada. I'm sure this would have changed my shyness. Sometimes life hits you in the head with a brick. Don't lose faith. I'm convinced that the only thing that kept me going was that I wanted to know everything. If you haven't found it yet, keep looking. As with all matters of the heart, you'll know when you find it. It just gets better and better as the years roll on. So keep looking until you find it. Don't be shy. Thank you.

## 自分は変わったと実感



情報システム学科  
大柴 千尋

## カナダコース

本の人たちに私が体験した中国の文化を知ってもらうために、メディアへ情報を提供するジャーナリスト、日本の人たちにより中国を知ってもらうツアーコンダクターなどの職業に就きたいと思いました。

また中国でたくさんさんの友人ができたことは、何よりも貴重な財産になったと思います。一緒に留学を体験した同志はもちろん、日本語の通じない外国の人たちとも交友関係を結びました。大学生というのは損得勘定や仕事の人間関係が関わらない、親しい友人をつくるチャンスだと聞いたことがあります。

彼らとの交流はともに中国語を教え合い、お互いを高め合うような関係であり、生涯の友人であり、私はこのメンバーと共に留学生活を過ごしたことを誇りに思います。

## 多くの国の学生と交流

アンニョンハセヨ。みなさん



情報文化学科  
竹部 祐太

## 韓国コース



中国

こんにちは。私たちは韓国のソウルに約4カ月の留学をしました。この間で得たものは本当に多く、語学力の上達や、さまざまな発見、外国人の友達をはじめとする人との出会いなど、自分にとって全てのことが新鮮で良い経験になりました。

今回で韓国に訪れたのは2回目でしたが、留学の体験では旅行だけでは分からないことを知

ることができ、さまざまなことを経験できる機会でした。実際に生活してみると、苦労もありますがとても楽しいです。何よりいろんな国の留学生との交流は、私の持つイメージとの違いに気づく機会になりました。

私が最も苦労したのは、コミュニケーションでした。最初の頃は韓国人の友達にはゆっくり話してもらったり、言葉を省略

しないでももらったりしました。しかし、徐々にいろいろな人とのつながりも楽しく、努力するようにもなりました。また、外国人留学生同士は英語でコミュニケーションをとることもよくあり、これも苦労しました。私にとって英語は韓国語よりもはるかに難しかったため、諦めてしまいましたが、そのおかげもあり、韓国語が上達したようにも思います。しかし、韓国語と同時に英語を勉強できるという点は第二外国語圏留学の良い点であるとも思うので、英語に挑戦してみるのが良いと思います。



韓国



カナダ

挑戦という部分では、私は自分の関心のあるファッションを通じて留学を充実させました。それは、買い物から始まり、スナップ撮影やファッションウィークへの参加などの活動を通して、多くの人と交流することでした。これはとても刺激のある経験になりました。

平成27年3月現在〈五十音順〉

## 10



# 就活解禁直前に「企業交流会」

来春3月卒業生の採用スケジュールは「広報活動開始」が3月1日以降に、「選考活動開始」は8月1日以降と定められました。今年3月卒業生に比べ3カ月の後ろ倒し



す。

本学では各ガイダンスやセミナー等で、県内外の企業をお迎えし、業界研究も数回実施してきましたが、講義回数に限りがあり、就職活動目前に企業と学生が接点を持つ「企業交流会」を企画

## 内定に向かって好スタート！

192社が参加

短期決戦に備え積極策

となり、短期決戦の中で就職活動となりました。早めの企業研究や卒業後の進路（就職先）を明確に定め、積極的に行動することが就活を成功させる大きな要因ともいえます。

し、事前に約200社からアンケートにお答えいただき実施に至りました。初の「企業交流会」は2月4、5日の2日間にわたり、県内外より19

人物像」など幅広い視点で交流を図りました。参加企業からは「就活が始まる前に、業界研究できるのは素晴らしい」「学生がより多くの企業に触れられる良いオペレーションだった」「学生がいろいろな職種の方と話ができる非常に良いシ

り、社会人と話すことへの抵抗感の払拭ができ、企業にとっては学生一人ひとりの個性や本質を知りたい機会となりました。

就活日程が変わること、企業の求人活動が活発になり、学生にとっては多くの企業の採用担当者に耳を傾け、情報を整理しながら進路を絞る積極的な行動が必要となります。今回の「企業交流会」では多くの業界・企業と触れ合うことができ、3月の就職活動解禁と同時に積極的に訪問ができたと考えています。

さらに、4月11、12日には恒例の「学内合同企業説明会」も開催され、参加企業200社からの情報を基に、就職内定に向かって好スタートできたものと期待しています。

## 本番さながら模擬面接

3年生向け就職支援として毎年実施している「就職模擬面接講座」が2月14日、本校みずき野キャンパスで開催されました。この講座は平成17年から実施され、就職活動開始前の実践講座として評価されています。また、キャリアコンサルタントや就職支援者、社会人、卒業生、4年生を講師として県内外から招き、さまざまな面接パターンで学生にアドバイスしました。就職活動の日程変更で、就職・採用活動の流れが見

えにくく、就職情報サイトなどからのエントリーや説明会への誘導が例年以上に強いともいわれています。就活に王道はなく、多くエントリーや説明会をこなせば内定が近づくのか、少数に絞って集中して対策を練ったほうが効果的なのか、などと考える方もさまざまです。情報に流されず、自分に合った就職活動を進めることの大切さを身に付け、逆に、自分に合わない活動をしたり、背伸びしてアピールしたりすると疲れ

## 情報に流されずに

るだけです。午前の講座では、グループディスカッションや面接の実践を通じて自分らしさを確認。採用選考の対策を立てるとともに、どうやって自分らしい活動ができるのかを考えました。具体的には「伝わる採用選考のポイント」と題して「伝えたい私」を準備し、一貫して伝える。応募書類、面接に共通するポイントとして、エピソードや経験を伝える留意点を考え、またグループディスカッションの実践

## 自分らしい活動を

対策を学び、併せて面接マナーの練習を行いました。午後の講座はグループに分かれ、本番を想定した面接実践トレーニングを行いました。3年生も面接官や観察者の立場になって面接を行うなど視点を変えて、多くの気づきと本番に向けての改善点を把握し、就職活動における面接の感覚をつかんでいました。

この講座で学んだことを活用し「自分らしい」就職活動で採用が決められるよう願っています。

## 教員の活動（本人申告による）

### 1) 研究論文・図書

内田 亨(情報システム学科・教授)

・(2015年)「医療機関のガバナンス構築への取り組み」[Medical forum CHUGAI] 19巻1号(47頁)

區 建英(国際文化学科・教授)

・(2014年)「丸山真男思想史学と日本の改革」[思想] 第27期 台湾聯経出版社(59-86頁)  
・(2015年)「厳復思想中的国民形成と「中学」価値重構」[道家文化研究] 第28輯 三聯書店(315-332頁)  
・(2015年)「解読厳復の自由観と公共精神」[厳復と近代中国社会思潮] 天津人民出版社(196-217頁)

神長 英輔(国際文化学科・准教授)

・(2014年)「『北洋』の誕生 場と人と物語」成文社

白井 健二(情報システム学科・教授)

・(2014年)「Validity of Production Flow Determined by the Phase Difference in the Gradient System of an Autonomous Decentralized System」International Journal of Innovative Computing, Information and Control 10 (5) 1727-1746  
・(2014年)「Throughput Improvement Strategy for Nonlinear Characteristics in the Production Processes」International Journal of Innovative Computing, Information and Control 10 (2) 1983-1997

・(2015年)「Production Throughput Evaluation Using the Vasicek Model」International Journal of Innovative Computing, Information and Control 11 (1) 1-17

藤本 直生(国際文化学科・准教授)

・(2015年)「“I was in their shoes”: Shifting Perceptions of Editorial Roles and Responsibilities」The Journal of the English Scholars Beyond Borders (ESBB) 1 (1) 109-142

### 2) 学会・研究会・講演等

石川 洋(情報システム学科・准教授)

・(2014年12月11日～13日)「ProBを用いたVDMの陰性様の解釈実行の試み」(第21回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ 霧島国際ホテル)

區 建英(国際文化学科・教授)

・(2015年1月11日)「丸山真男の方法と中国思想の省察」(同志社大学人文科学研究第84回公開講演会 同志社大学)

藤本 直生(国際文化学科・准教授)

・(2014年3月20日～5月22日)「“I was in their shoes”: Shifting Perceptions of Editorial Roles and Responsibilities」(1st The English Scholars Beyond Borders (ESBB) Conference Dokuz Eylul Universit・Turkey)  
・(2015年2月5日～7日)「Sustaining Reviewing Quality: Induction, Mentoring, and Community」(2nd ESBB Conference Bangkok・Thailand)

一番学ぶことができたのは、人のつながりの大切さだと感じています。一緒に勉学や遊びに付き合ってくれた友人たち、サークルでは率先して盛り上げてくださった先輩方、つまずいたときにはアドバイスを必ずくれ励ましてくれる先生方、優しさで溢れた人が周りを囲んでくれていました。

1年次の頃は、緊張しながら自分で時間割を設定し、単位を取得するために一生懸命計画を立てていました。情報システムという専門的な知識を友人たちと共に学び、球技大会では全員参加の大縄跳び大会で上位に入賞したことからチームと先生で焼き肉を食べにいったこともありました。2年次になると学生生活にもすっかり慣れ、少し余裕もできたためF.P.の資格取得を目指して勉強も始めました。本学では資格取得すると奨学金がもらえることから勉学の面でも手厚いサポートをしていたので、精神的につらい場面でもキャリア支援課の先生方が優しくアドバイスしてくださったおかげで、4年次の春には内定をいただくことができました。

この結果は周りのサポートなしでは絶対に成し得なかったと思います。皆さんに恩返しができるよう、社会人として一歩一歩歩み続けたいです。

## 優しさ溢れた人々に囲まれ

情報システム学科 木下 和

陸上競技部で過ごした4年間は、これまでの人生で最も密度の濃い時間でした。入部当初は部員数が私を含め2名という、高校時代のような充実した練習環境とは一転し、非常に酷な状況からのスタートでしたが、110mハイドルで全日本インカレを目標に可能性を信じて練習をしてきました。試行錯誤を繰り返していく中で1年次から自己ベストを何度も勝、4年次では北日本インカレ優勝など、幸先は良かったものの、その後の2年、3年次で手術を伴うけがをすることができました。こうして4年間を振り返ると、諦めたくない思いと、諦めたくない思いと、困難をチャンスとして捉えて実行してきただけで、結果に繋がったのだと思います。これらを実行の原動力は、自分の周りの家族や友達、先輩や後輩、指導していただいた先生方がいたからこそだと思います。とても感謝しています。

## 諦めず全日本インカレ出場

情報システム学科 本間 竜一

この4年間、最も多くの時間を費やし最も心に残っているものといえば学友会活動です。きっかけは本学に些細なことで、自分と同じ中学、高校の学生がわざわざ大学のこと、少しは知ることができたり、仲間が増えたりするかなあ」と何となく学友会執行部に入ったのが始まりでした。1年次にはとにかくがむしゃらに活動し、執行部の学生に限らずさまざまな学生と協力しながら大学で面白いことができないかとあは学友会長として職務にあら

# 卒業にあたって 掛け替えのない濃密な時間だった

## がむしゃらに学友会活動

情報文化学科 大沼 竜二

「やりたいことは全部やる」これが私の大学生活のモットーです。入学すると早速、国際交流インストラクターや学友会、合唱部などに所属しました。同時にアルバイトでお金を貯め、2年次にはロシアへの派遣留学に参加しました。帰国後はロシア語のスピーチコンテストや検定にも挑戦しました。さらに4年次は、卒業旅行として1週間のヨーロッパ旅行も実現することができました。

このように充実した大学生活の中でも私が最も尽力したのは「災害ボランティア」の活動です。また活動継続のために、定款や事業案を作成して学内外の助成金制度に応募したことも良い経験となりました。

これら全ての活動は一人で実現できたわけではありません。支援してくださった先生方や職員の方々の成長させてくれた友人、そして活動を引き継いでくれる後輩に心から感謝しています。ありがとうございました。

## 災害ボランティアに尽力

情報文化学科 山口 裕加

この4年間、最も多くの時間を費やし最も心に残っているものといえば学友会活動です。きっかけは本学に些細なことで、自分と同じ中学、高校の学生がわざわざ大学のこと、少しは知ることができたり、仲間が増えたりするかなあ」と何となく学友会執行部に入ったのが始まりでした。1年次にはとにかくがむしゃらに活動し、執行部の学生に限らずさまざまな学生と協力しながら大学で面白いことができないかとあは学友会長として職務にあら



平成26年度

# 卒業式

## 学長式辞



新潟国際情報大学  
学長 平山 征夫

## 「地域で生きる」ことも

## 大きな価値を持った人生

本日、ここに新潟国際情報大学の第18回卒業式を迎えるに当たり、まず最初に卒業生諸君に心からお祝い申しあげます。「卒業おめでとう」。

また、ご列席のご父母の皆さまにもお祝い申し上げます。4年間家庭から支えて来られたわけで、本日卒業式を迎えられ、喜びいかばかりかとご推察申し上げます。ご臨席いただきました来賓の方々にも御礼申し上げます。開学以来本学に格別なるご支援を賜りありがとうございます。

卒業生の皆さんは今卒業式に臨み、4年間の大学生活の思い出が走馬灯のように駆け巡っていることと思います。楽しかったこと、苦しかったことなどが思い浮かんでいることでしょう。

4年前、皆さんは大きな希望に燃えて本学に入学してきました。そしてみずき野の四季は巡り、4年の歳月がたちました。みずき野でのキャンパスライフはいかがでしたか。弥彦と角田の山々を望み、この恵まれた自然の中でスポーツにいそしみ、友人と友情を育み、そして先生方の指導のもと勉学に励んだ大学生活は、皆さんが輝いていた青春の尊い記念碑になることでしょう。今春、みずき野から巣立ってゆく卒業生

は、情報文化学科106名、情報システム学科168名、合計情報文化学部274名です。皆さんは4月からは社会人としてそれぞれが選んだ道に新たなスタートを切るわけです。実社会では大学時代とは比べようもない多くの困難にぶつかることでしょう。プロの職業人として仕事で報酬を得るということは、もともとそれほど易しいことではありませんが、現在の世界の経済情勢を見ますと、皆さんの多くが所属することになるそれぞれの企業にとっても容易でない時代であります。そうした時代を社会人として自立して生きてゆくのですから、多くの困難に遭遇するでしょう。しかも大学で学んだことはすぐ役には立ちません。だから、当面皆さんは迷い悩むことでしょう。でも、大学で学んだことは必ず役に立ちます。それは、あたかも地中に深く伸びて木を支える根のように、皆さんに人生で必要な栄養を送り続けてくれるはずで、みずき野で学んだことがこれからの人生で戸惑うたびに「考え、判断し、実行し、解決する力」として、生きる知恵として皆さんを救ってくれるでしょう。

その力をさらに高めるためにも卒業後も学ぶことをぜひ続けてください。私が社会人になってからもずっと学び続けてきたバックボーンとなっている言葉があります。それを社会に船出する皆さんへのはなむけの言葉として贈ります。それは「インド独立の父」マハトマ・ガンジーの言葉です。ガンジーのことは皆さんも良く知っているでしょう。「マハトマ」とは「偉大なる魂」という意味ですが、その名の通りガンジーは私たちに教訓となる言葉をたくさん残しています。その中でも最も有名な言葉です。それは、「明日死ぬと思つて生きなさい」。永遠に生きると思つて学びなさい」という言葉です。生き方と学び方の神髄を示唆して、いつ思い浮かべても意味の深さに



## JABEE認定プログラム

## 10人の修了生に証書授与

卒業式に先立って、JABEE(日本技術者教育認定機構)認定による情報システム技術プログラム修了証書の授与式が行われました。平成26年度と同プログラムを修了した学生は10人。学長が一人ひとりに証書を手渡して勉学の努力をたたえました。

このプログラムはJABEEが認定する教育制度で、修了生は「技術士補」の資格が得られ、文部科学省令で定める技術士資格1次試験免除の優遇措置が受けられるとともに、情報システムを開発する技術者になるために必要な教育を受けたという社会的評価が与えられます。

情報システム学科では、情報とその関連分野の教育内容について2007年に11月にJABEEによる審査を受け、翌年5月に認定を得ることができました。12年11月には継続審査を受け翌年4月に認定が継続となっています。

これで本学を卒業し修了証書を取得した学生は合わせて121人となりました。

わが身を振り返ります。  
デフレ経済からの脱却を図ろうとする「アベノミクス」は、昨年暮れの一段の金融緩和によりさらなる円安・株高が進行し、その分の景気回復による雇用情勢の好転は、皆さんの就職活動に少なからずプラスになったと思います。でもその恩恵が過疎高齢化に悩む地方にまで十分波及していないことなどが問題になっています。フランスの経済学者トマ・ピケティの著書「二十一世紀の資本」の出版から世界的に「格差」拡大問題が話題となっていますが、所得格差だけでなく地域間格差も問題です。もう一つ議論となっているのが「成長の持続」です。超金融緩和による一時的な心理効果を利用してデフレから脱却しようとする背景には、さらなる持続的な経済成長を追求する考えがあります。一般的には「成長すること」は良いことですし、「豊かになれば幸福になれる」と信じられているからです。でも最近、経済学者の中から「いつまで成長を続けられればいいのか」とか「続けられるのか」、あるいは「成長すれば幸せになれるのか」とか「人々を幸福にする成長とは

何か」といった議論が聞かれています。ようやく真に社会に役立つ経済学の在り方として「幸福のための経済学」が重要であることに気が始めたようです。  
皆さんがこれから羽ばたいてゆく現実の世界は、先ほど申し上げたようにそう生易しくはありません。中国等の成長鈍化や、ギリシャ問題の再燃や欧州経済のデフレ化などの問題を抱えながらグローバル経済は競争をさらに激化していますし、IS問題、ウクライナ情勢など国際政治の大きな火種は何ら解決の見込みが立っていません。先月来日したピケティ氏は「格差」の固定化の問題指摘をしましたが、以前より大きな格差を生むようになったそもその原因である「自由な競争による成長の追求」が本当に多くの人々を幸福にするシステムであるのか、そして人類がいつそう厳しい条件下で地球環境と調和していかなければならない時に選択すべきシステムであるのか、今こそ真摯に見直すべき時にきていると私は思っているのですが、残念ながら少数意見です。永年政治・経済界で生きてきた私には、現在の世界の仕組みは「人々をより



幸せにするためではなく、より成長し利益をあげるための仕組み」であるように見えます。こうした仕組みの中で生きてゆくことは、そう容易なことではありません。皆さんは今からそうした荒海に乗り出すのです。でもたじろいではいられません。賢い思考力・判断力と強い信念、大いなる勇気を持って挑戦しなければなりません。いつの時代でもそうやって時代を切り拓いていったのは若者だからです。

もうひとつ現在盛んに議論されているのが「地方創生」です。昨年5月に「日本創成会議」が発表した「地方消滅」の報告は大きなショックをもたらしました。このままの人口推移と都市への集中および合計特殊出生率で推移すると、2040年には全国市町村の半分が立ち行かなくなる危険があるという報告だったからです。そのため、昨年末の総選挙以降「地方をどう再生するか」が大きな政治テーマとなっています。皆さんは勇気をもって自分の人生を切り拓いてゆくと同時に、自分たちが住む地域・故郷を維持し良くしてゆくことにも立ち向

## 理事長祝辞



学校法人 新潟平成学院  
理事長 星野 元

## 今日の感慨を生涯忘れず

### 「再誕」を胸に力強く前進を

新潟国際情報大学の第18回卒業式にあたり大学設置者であります学校法人新潟平成学院を代表して一言お祝いと激励の言葉を申し上げます。本日をもって卒業する27

かつて欲しいのです。「地域で生きる」ということにも大きな価値を持った人生を送ってください。

卒業式に当たって毎年申し上げていることがあります。それは卒業後も自分の人生に夢を持ち、その実現に向かって前進してほしいということです。その実現が難しいからといってそれを時代や他人のせいにならず、諦めずたゆまぬ努力をしてください。夢が実現することも大切ですが、それ以上に夢の実現に向けて努力をすることこそが大切なのです。なぜなら、それが自分の人生を価値あるものにする唯一の道だからです。自分の人生は自分の足で立って、前を向いて自分の手で未知なる道を歩き分けて進んでゆくしかありません。全力を尽くした人生こそ納得できる人生です。納得のゆく人生を送ってください。

このことの大切さについても、ガンジーは言っています。

「重要なのは行為そのものであって、結果ではない  
行為が実を結ぶかどうかは、

4名の皆さん、卒業まことにめでとうございます。併せまして多数ご出席いただきましたご父母の皆さまに心よりお祝いと感謝を申し上げます。また、年度末のお忙しいなかご来賓の皆さまも多数ご出席いただきありがとうございます。卒業生の就職をはじめ日ごろ何かとご高配を賜っておりますことも併せまして深く感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは今、胸に何が去来しているでしょうか。東に遠く飯豊、朝日の青い山脈を望み、西に大きく弥彦、角田山を仰ぎ見る、緑豊かな「みずき野」キャンパスでの懐かしい4年間の日々でしょうか。それとも苦しかったアルバイトのことでしょうか。一人ひとり振り返る思い出や感慨は違うでしょうが、本日この日の、いま現在の心に思うことをどうか生涯忘れないでほしいと思います。

いよいよ実社会での人生が始まります。

自分で行うことができるものではなく生きていくうちに分かることも限らないだが、正しいと信じることを  
行いなさい

結果がどう出るにせよ、  
何もしなければ

何の結果もないのだから

卒業式の式辞としては、ずいぶん説教めいた話になってしまいました。もう一つ聞いてください。それは、どうか高い志を持って「自己に厳しく他人に優しい」自我を確立し、人間味あふれた人生を送ってくださいということ。私の友人の「さだまさし」さんの歌で、現在映画化され上映中の「風に立つライオン」は、シュヴァイツァー博士のように生きたいと青年海外協力隊に参加し、ケニヤ・ナイロビの熱帯医学研究所に勤務した長崎大の若い医師の実話が基になっていますが、「空を切り裂いて落下する滝のように僕はよどみない生命を生きたい。キリマンジャロの白い雪。それを支える紺碧の空、僕は風に向かって立つライオンでありたい」という歌詞に私た

新しいステージを迎え旅立つ時に、よく荒海に漕ぎ出す船に例えますが、これは単に「波が高い荒れ狂う海」という意味だけではなく、波静かな海であっても、理解できないような矛盾や非常識といったものが浮き沈みし、また暗い海底には、許されないような不合理や不条理なことが沈殿、堆積しているとの意味もあるかと思えます。そうした大海原を今のところは小舟のような皆さんは乗り出していかねばならないのです。

20世紀の終わり、これから21世紀を迎えようとしている時に、しきりに「戦争の世紀」との決別が叫ばれ、世界の多くの人々がそれを決意し、また期待をしました。しかし、現実はどうでしょうか。民族間、地域間の紛争をはじめ宗教上の対立などから戦火は無くなるどころかむしろ激化しているような局面が続いています。さらにはテロの脅威も強まり、広がっています。極端

ちは感動を覚えます。それは風に向って立つライオンが自分のためではなく、他人のために命をささげる崇高な人生を歩む存在だからでしょう。

最後に卒業後も本学に想いを寄せてくださるようお願いいたします。本学は毎年歴史を重ねながら、より地域に必要な大学であり続けるとともに、この地域で活動している本学の卒業生にとって、誇りの持てる母校であり続けたいと願っています。時折、「学長、私卒業生です」と声をかけられます。その時「おお！ 社会人としてしっかりした人生送っているな」と感じることは、学長としてこの上ない大きな喜びです。皆さんも見かけたら声をかけてください。

みずき野に春の訪れを感じられてきました。それは皆さん卒業生を送り出し、新入生を迎える春でもあります。人々は春とともに新たな人生に向かってスタートを切りまします。皆さんはこの春、社会人としての人生に歩み出します。そんな皆さんの前途に幸多かれとエールを送って私のお祝いの言葉といたします。

な自然現象による災害もわが国ははじめ世界各地で多発し、加えてわが国ではメルトダウンした原発を抱えて生き続けなければなりません。

皆さんは私が歩んできた時代とは違って、これまで経験したことのないようなさまざまな厳しい試練に直面することは確実、といっても過言ではないでしょう。しかし、そうした、ある意味「不安の時代」というか「逆境の時代」にあっても、皆さんには決してくじけない強固な心と覚悟をもって力強く前進して行ってほしいと願っています。

ここで一つだけ新たな出発を機に、皆さんに考えてみてほしいことがあります。

京都大原に「三千院」という有名な天台宗のお寺があります。かつて歌にも登場しましたから知っている方もいるかと思いますが、一昨年、私の出身校の小千谷高校の大先輩がこちらの門主に就任されました。



先輩などと軽々しく言えないのですが、小千谷市出身の堀澤祖門大僧正がそのお方です。86歳になられたと思います。祖門師は戦後初めて比叡山の過酷な荒行である「12年籠山行」を成し遂げた高僧として知られています。この荒行は下界を離れ「12年、山に籠る」と書き「一期籠山行」とも言います。比叡山の荒行では峰々を駆け巡る「千日回峰」の方が有名なのですが、この修行を「動の修行」とすれば、天台宗の開祖、皆さんもご存じの最澄を安置した山中のお寺「浄土院」に12年間も詰め、比叡山に張

## 卒業生代表 答辞



(総代)情報文化学科  
荒木 円花

## 奇跡の出会い友情と交友 尊い大きな財産になった

本日は、平山学長はじめ、先生方、ご来賓の皆さまのご臨席を賜り、私たち卒業生のために、盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。卒業生一同、心より御礼申し上げます。

新潟の冬の寒さも峠を越え、爽やかな春の風が立ち、卒業という事実と向かい合っている今、私たち一人ひとりの胸中には、さまざまな想いが去来していることと思います。

私は、ロシア文化を学びたく、新潟国際情報大学に入学しましたが、実は第一志望の大学ではありませんでした。入学式のあと、私は悔しさのあまり涙が止まらなかつたこと、大学に行く足が重かつたことを今でも覚えています。しかし、気が付けばそ

られた、結ぶ、世界の界と書く「結界」という定められた区域から一歩も外に出ることなく、厳格な修行に明け暮れる「12年籠山行」は「静の修行」といわれます。

本日、新潟日報社の小田社長が来賓でおいでになっていますが、祖門師のことは昨年10月に新潟日報夕刊に紹介されましたので、ご存じの方も多いかと思えます。天台宗で最高位の大僧正になられた祖門師が仏門に入ったきっかけは「再誕」という言葉だったそうです。「再び誕生する」と書きませんが、旧制小千谷中学から旧制新潟高校

れが嘘のように大学へ行くことが楽しくなり、有意義な大学生活を送ることができました。今では、新潟国際情報大学で学んだことを誇りに思います。

4年間を通して、特定の分野に限らず、幅広い視点から国際社会を勉強し、ロシア語の学習に加え、コミュニケーションを重視した英語の授業にも取り組み、多面的に考え、異文化を受け入れる姿勢、自分自身や自分の考えを伝える力が身に付きました。

2年次のロシアへの派遣留学は、大学での学びを実践するよい機会でした。最初は、ロシア語もうまく伝わらず、失敗を恐れて、話したいと思っても自分から会話をすることができませんでした。しかし、一緒に留学へ行った仲間からそれを指摘され、その仲間の果敢に挑戦する姿、自分を伝え解け合っている様子に刺激を受け、私も徐々に自分から会話をするようになり、人に道を聞いたり、外国人の友人と出かけたり、積極的に取り組むようになりました。

4年間における大学での学びは、知識や語学力の向上だけでなく、人の縁の尊さ、感謝の気持ちまで多岐に渡りました。ロシア語にこのような言葉があります。

《На родную душу и братство

Дороже любого богатства》  
友情や親交はどんな富にも替えることのできないほど尊い。私はこれを「人との出会いは奇跡であり、そこに至るまでの全ての縁に感謝し、袖触り合ってきた(多生

に進み寮の先輩から、この「再誕」という言葉を聞かかれ、衝撃を受けた祖門師は以来この言葉が頭から離れなくなったといっています。

京大に進学したけれどもますます気になつてしょうがない。1学期を悶々として過ごしたけれど「再誕」が頭から離れない。そこで結局、祖門師は大学中退を決意して比叡山に導かれるように山に入り修行僧になつたそうです。祖門師によれば、「再誕」とは「悶々とした旅の結果、自分とは何かと問い、これまでのように他に依存する生

の縁も生かし続けることは何よりも替えない」と解釈します。この言葉はまさに私の大学生活を総括すると同時に、一番の大きな学びとなりました。心から尊敬できる恩師、互いに高め合い、信頼できる友人たちに出会えなければ、私は受け身の姿勢のまま、充実した4年間を送ることができなかったでしょう。大学で得た交友関係は、私の人生における大きな財産になると確信しております。

明日からの人生の節目において、大学で育んできた力、学びをそれぞれの分野で活かしていきたく思います。これから踏み出していく道は、決して平坦ではないでしょう。その時こそ、友人たちと励まし合い、切磋琢磨しながら、大学で学んだことを糧に、それぞれの目標に向かって、よりいっそう励んで参ります。

最後になりましたが、学問の奥深さを示唆し、学ぶことの面白さ、大切さをご指導くださった平山学長をはじめとする先生方、共に学び、多くの時間を過ごしてきた友人たち、そして私たちを今まで育て、大学にまで通わせてくださった両親、家族に心から感謝致します。これまで、本当にありがとうございました。

本日も臨席の皆さま、後輩の皆さんのご健康とご活躍、新潟国際情報大学の輝かしい発展をお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

## 祝電

順不同

日本私立大学協会会長

大沼 淳様

新潟県知事

泉田 裕彦様

新潟市長

篠田 昭様

燕市長

鈴木 力様

新潟商工会議所会頭

福田 勝之様

株式会社ウエマツ代表取締役

福田 浩志様

株式会社エージェック

古後 昌彦様

株式会社エクスシステム

渡辺 和子様

株式会社NSコンピュータサービス

上村 正雄様

株式会社ゲイン代表取締役

関口 千房様

セコム上信越株式会社

野沢 慎吾様

代表取締役会長

野沢 慎吾様

ALSO K

野沢 慎吾様

新潟総合警備保障株式会社

野沢 慎吾様

代表取締役社長

野沢 慎吾様

株式会社日本ドリコム

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役社長

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様

代表取締役

野沢 慎吾様



## 平成26年度卒業式

## 274人が新たな船出

晴れやかに新しい社会へ巣立ち―平成26年度(第18回)卒業式が3月22日、新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)で行われ、274人(情報文化学科106人、情報システム学科168人)が新たな人生に向かってスタートしました。

式典は学位記授与から始まり、まず卒業生全員が名前を呼ばれて登壇し、平山学長が一人ひとりと握手し「おめでとう。頑張ったね」などと前途を祝福しました。学長は式辞で「実社会の荒海に乗り出してもたじろがず前を向いて未知なる道を進もう。卒業後も学び続け全力を尽くし納得いく人生を送ろう」と激励しました。

卒業生を代表して情報文化学科の荒

## 荒海でもたじろがず 未知なる道を進もう

木田花さんが答辞で、ロシア語の諺を引用し「友情と親交はどんな富にも替えられない。大学での奇跡の出会いは大きな財産。4年間で学んだ力を生かして社会での使命を果たしたい」と力強く決意を述べました。

最後に卒業生と教職員と父母らも一緒に、吹奏楽部の演奏に合わせて校歌をコンサートホールに響かせ「友と歩もう夢創る道を」と歌い祝福しました。

引き続き恒例の祝賀会が夕方、ANAクラウンプラザホテル新潟で開かれました。晴れ姿の卒業生たちは教職員と別れを惜しみ前途を祝し合って、杯を重ね記念撮影を繰り返し、和やかに学生時代最後のパーティーが盛り上がりしました。



第18回までの卒業生は合計5,244人に

年 度	卒業生数	情報文化学科	情報システム学科
平成9年度(第 1回)	295人	116人	179人
10年度(第 2回)	290人	124人	166人
11年度(第 3回)	303人	126人	177人
12年度(第 4回)	294人	116人	178人
13年度(第 5回)	291人	118人	173人
14年度(第 6回)	277人	111人	166人
15年度(第 7回)	314人	118人	196人
16年度(第 8回)	294人	115人	179人
17年度(第 9回)	299人	121人	178人
18年度(第10回)	278人	110人	168人
19年度(第11回)	312人	126人	186人
20年度(第12回)	285人	117人	168人
21年度(第13回)	267人	105人	162人
22年度(第14回)	310人	117人	193人
23年度(第15回)	272人	110人	162人
24年度(第16回)	294人	113人	181人
25年度(第17回)	291人	124人	167人
26年度(第18回)	278人	107人	171人
合 計	5,244人	2,094人	3,150人

※9月卒業生含む



### 平成26年度 卒業生特別表彰

#### 学長賞(学業成績優秀者)

情報文化学科(総代)

荒木田花

情報システム学科

鈴木桃子

#### 学術賞

情報文化学科

荒木田花

新潟ロシア語スピーチコンテストにおいて3年連続入賞し、うち2回を優勝するなど優秀な成績を修めた。

情報文化学科

五十嵐望

第11回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト新潟予選大会において優れた表現賞を受賞し、またHSK6級を取得するなど優秀な成績を修めた。

情報文化学科

牧野 愛

第12回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト新潟予選大会において優れた表現賞を受賞し、また中国語検定試験2級を取得するなど優秀な成績を修めた。

#### 課外活動賞

情報文化学科

大沼竜二

学友会執行部の中核として3年間活動し、さらに2年間にわたり学友会長を務めて学友会活動の活性化に多大な貢献をした。

情報文化学科

rule project代表 山口裕加

東日本大震災に対するボランティア組織として数多くの活動を行い、また同活動を発展継承させる提案が本学の学生企画プロジェクトの優秀提案として採択され、本学ボランティア活動の活性化に多大な貢献をした。

情報システム学科

本間竜一

本学陸上競技部員として全国大会出場・北信越大会において優勝し、また4年連続で「新潟県陸上競技10傑」に入るなど優秀な成績を収めた。

#### 地域交流賞

情報システム学科

日本公美子

食育イベントチーム代表として、西區が主催した食育イベントにおいて特徴ある企画が多数の候補から採択され、さらに実践結果も西區自治協議会より高い評価が得られ、地域と大学との連携に大きく貢献した。